

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 29 年度 第 1 回相模原市廃棄物減量等推進審議会				
事務局 (担当課)		資源循環部廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)				
開催日時		平成 29 年 8 月 22 日 (火) 14 時 15 分 ~ 16 時 00 分				
開催場所		第 2 別館 3 階 第 3 委員会室				
出席者	委員	17 人 (別紙のとおり)				
	その他	- 人				
	事務局	19 人 (資源循環部長、廃棄物政策課長他 17 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 審議会概要説明 3 会長及び職務代理者の選任について 4 議題 (1) 相模原市一般廃棄物処理基本計画について (諮問) (2) 相模原市一般廃棄物処理基本計画及び実施計画について (3) 相模原市一般廃棄物処理基本計画 平成 28 年度の取組状況について (報告) 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言)

1 開会

2 審議会概要説明

事務局から本審議会の概要について説明を行った。

3 会長及び職務代理者の選任について

会長及び職務代理者の選出について、会長に坂本委員、職務代理者に五十嵐委員が選出された。

4 議題

(1) 「相模原市一般廃棄物処理基本計画」の諮問について、事務局から説明を行った後、藤田資源循環部長から坂本会長に諮問書を手交。

(2) 相模原市一般廃棄物処理基本計画及び実施計画について、事務局から説明を行った。

現行計画の基本理念・基本構想は新たに策定される計画に引き継がれるのか。現行の計画を踏まえ、施策体系別に評価を行い、推進していく課題と併せて検討する。

前回の審議会一般ごみ週 2 回収集移行後の状況として、昨年 10 月から今年 2 月までの収集量について報告があったが、市民への情報提供はどのように実施したのか。

本年 3 月発行の「リサイクルプレス」及び広報さがみはら中央区版において、市民の皆様にお知らせしたところである。

また、移行後 1 年を経過した時点で、改めてお知らせする予定である。

北清掃工場基幹的設備等改良事業について、延命化を図る改良工事とあるが、工事期間、費用、延命年数など具体的な内容を知りたい。

また、工事期間内において北清掃工場は稼働しないのか。

一般的な清掃工場の寿命は 15 ~ 20 年と言われており、平成 3 年に竣工した北清掃工場は設備等の劣化が激しいため、基幹的な設備改良工事を行う。

工事期間は平成 29 年度から平成 32 年度の 4 年間で、延命化を図ることで平

成 4 8 年度まで稼動する予定である。

工事は一炉ずつ行っていくが、共通設備の工事など、年に一ヶ月程度は全炉停止するため、その期間は南清掃工場にごみの搬入を行い、計画的に処理を行う。

具体的な工事内容は、劣化が激しい機器の更新とCO₂排出量の削減を行うための改修で、燃焼制御装置の改修、ごみクレーンの更新、粗大ごみの破碎機の電動機のインバータ化、タービン発電機の更新等を行う。CO₂を10%削減できる見込みである。

総事業費は4年間の継続費で約70億5000万円、内訳は国の交付金が約21億円6000万円、市債が約40億円3000万円、一般会計が約8億6000万円である。

市民が一般ごみの週2回収集に慣れてくると、減量化の意識は薄まってくるので、より一層、減量効果の啓発を行っていただきたい。

一般ごみ週2回収集の効果については、昨年10月から本年7月の前年同月比で、一般ごみは4.2%減少しており、資源は1.8%増加している。

(3) 相模原市一般廃棄物処理基本計画 平成28年度の取組状況について、事務局から説明を行った。

数値目標 「市民1人1日当たりの家庭ごみ排出量」について、減少しているのは回収回数の変更に伴って市民のごみ分別等の意識が高まったこととも思うが、水切りの効果も大きいと考える。効果の割合について伺いたい。

今年度の組成分析調査をこれから実施するため、分析結果については後日報告する。

数値目標 「ごみ総排出量」について、資源の実績量に小型家電は含まれているのか。

使用済小型家電の回収量を含んだ数値である。

数値目標 「ごみ総排出量」について、事業系一般廃棄物処理手数料改定とあるが、改定内容は。

10kg当たり180円から230円に手数料を改定した。

数値目標 「リサイクル率」について、平成25年度から平成26年度にかけて減少している理由は。

リサイクル率は全国的に下降傾向であると承知しているが、細かい分析はできていないため、分析の結果は後日報告する。

数値目標 「ごみ総排出量」のグラフについて、「資源」には事業者からの資源も含まれるのか。

事業者からの資源は含んでいない。

8 「ごみ・資源に関する相談会の実施」について、幼稚園・保育園での実施はなかったのか。

平成28年度は8園での実施があった。記載内容を修正する。

大学での実施については、49「きれいなまちづくりの日に係る事業」に記載している。

36「家庭ごみ有料化を含めたごみ処理手数料の適正な在り方の調査研究」について、内容や経過を公開しているのか。

ごみ量については現在減量化が進んでいるが、再び増加傾向に転じた場合などには検討が必要となることを想定し、記載している。

他自治体の取組や有料化を実施した自治体の情報収集をしている段階である。

62「収集車両の低公害化」について、平成27年度及び平成28年度に九都県市指定低公害車を4台導入しているが、収集回数の変更はごみに関わる費用削減も目的であったのに、平成28年度も導入費用をかけるのは矛盾を感じる。

車両の新規導入は既存車両の更新によるもの。全体の台数は減っている。最低限の収集体制を確保するためには不可欠な導入であると考えている。

各数値目標について、平成18年を基準にしている理由は。

現行計画策定時における直近の実績を基準としたものである。

「し尿及び浄化槽汚泥等の年間処理量の推移」については現状と比較すると、目標数値と乖離があり、達成は難しいと思われる。

どのようにとらえているのか。公共下水道への接続が進んでいないためか。

計画区域内については、地域によって公共下水道へ接続できない場合もあるが、今後も下水道関係部署と連携をとりながら公共下水道への接続を推進していく。

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安西 優花	公募		出席
2	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
3	五十嵐 道夫	相模原商工会議所	職務代理者	出席
4	池田 珠三子	さがみはら消費者の会		出席
5	猪俣 聡	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		出席
6	内山 尚美	さがみはらリサイクル連絡会		出席
7	王 文聡	公募		出席
8	大河内 由美子	麻布大学		出席
9	大矢 敏	公募		欠席
10	河本 博	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
11	菅野 泰男	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
12	小清水 忠雄	相模原市農業協同組合		欠席
13	坂本 堯則	相模原市自治会連合会	会長	出席
14	成井 マユミ	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
15	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
16	藤倉 まなみ	桜美林大学		出席
17	不破 薫	相模原廃棄物対策協議会		出席
18	本田 泰章	津久井地域不法投棄防止協議会		欠席
19	三須 城太郎	相模原地域連合		出席
20	宮津 敏信	公募		出席